



宮崎治宇蔵 議員

問1

二〇〇三年度当初予算は「若狭路博2003」関連の予算が中心と思われるが、市民が望んでいるのは、景気や雇用対策でないのか。

答

厳しい雇用、経済情勢も踏まえ、十四年三月補正予算で、公共下水道整備など国の補正予算を可能な限り受け入れるとともに、十五年度当初予算では、昨年度を大幅に上回る規模での緊急地域雇用創出特別基金事業の予算対応を行った。

問2

介護予防について。

答

簡易デイサービスや健康教室など積極的に推進する。在宅介護支援センターは、地域ケア体制の拠点として大きな役割を果たしている。今後は、関係機関との一体的連携のもと一層の向上を図る。

問3

使用済み核燃料の中間貯蔵施設についての見解は。

答

商工会議所や市議有志が勉強会を開いていることは知っているが、私はこれまでどおり白紙の立場。



山口 貞夫 議員

問1

食のまちづくりと市の経済活性化について。

①雇用対策を立てよ。  
②産業経済戦略会議の一元化し、コーディネート活用手法を取り入れよ。

問2

経済雇用は食のまちづくりにより、総合的・複合的な施策で取り組む。

問3

産業経済戦略会議の手法を取り入れ検討する。

問4

県立大学海洋資源学科の学部化に関して。

答

市にとって約五〇億円の経済波及効果が期待される。地元高校生の受け皿作り、経済、流通、情報などの振興に結びつぐためには、学部規模での四年間の一貫した教育が必要。今後、小浜水産高校の存続問題は、小浜キャンパスの学部化と併せて一体的に考えていく事が重要。各界の協力を望む。



小堂 清之 議員

問1

若狭おばま食文化館の運営および内容について。

答

小浜の歴史文化を紹介し、食と伝統工芸の実演体験の場および温浴施設であり御食国若狭おばまを推進する拠点施設である。総事業費は十五億九千五百万円で年間市の持ち出しは五百万円台である。

問2

環境保全にも重要な森林の再生整備をどうするか。

答

森林を水土保持林、人と共生林、循環利用林に区分して適正な整備を進めていく。今年度からの森林地域活動支援交付金制度実施による若狭森林組合への委託で放置林の整備と雇用の創出を図る。

問3

国道一六二号深谷・相生間全面改良と県道岡田深谷線開通の展望は。

答

十四年度においてルート選定業務を発注し事業の可能性や対費用効果等を検討し関係当局に積極的に要望していく。



富永 芳夫 議員

問1

市長は市の最高責任者として市民の生命・財産を守るべき任務を負っているが、防災に対する認識はどうか。

答

小浜市地域防災計画により、今後必要な事業を行ってまいります。

問2

昨年八月国土交通省が北川水系浸水想定区域図を公表したが、これに基づき洪水ハザードマップを策定し全戸に配布するつもりはないか。

答

南川水系浸水想定区域図の公表まで、まだ一、二年かかる予定であり、これが完了次第、洪水ハザードマップの作成など地域防災計画の見直しを行いたい。

問3

自主防災組織の育成が必要と考えるが、市の認識はどうか。

答

過去の例から、自主防災組織は災害時には重要な役割を担うと言われており、今後機会を捉えて、それぞれの地域に設置をお願いしていきたい。



池田 英之 議員

問1

若狭路博2003による地域活性化について

答

若狭路、小浜の地域資源である「食」「祭」「海」「エネルギー」「文化」を全国に情報発信する絶好の機会と考えている。これらことから、交流人口、観光人口の増加が見込まれ、リピーターへとつながっていく。今後、小浜の食産業や観光産業をはじめ農林水産業の活性化に結びつくものと考えている。

問2

雇用対策等地域経済への対応について

答

「ハローワークおばま」管内においても、雇用保険資格喪失者数等からして厳しい状況になっている。今後は、「新産業支援策」「小規模企業者等設備貸与助成事業」等の周知徹底をして地域産業の活性化を図っていきたく考えている。また、「食」のまちづくりにより新たな食品産業の創出も期待できると考えている。